

第7回

高校野球・甲子園塾

報告書

期日 11月21日（金）～23日（日）

会場 中沢佐伯野球記念館・尼崎市立尼崎高等学校

長野県木曾青峰高等学校

野球部監督 柳瀬 元

日が経つにつれて、参加して良かったという思いが込み上げてきます。

山下塾長を始め、大藤先生、仲井先生から刺激をいただいたことは当然ですが、他の受講生やモデル校の選手からも刺激をもらいました。

自分の力の無さを痛感すると共に、これから指導者としてやらなければならないことの道筋が見えたような気がします。

この3日間を通じて、改めて感じたことがあります。

それは、「甲子園で勝つ力をつけなければならない」ということです。

全国の指導者はとても考えていました。

光星学院や中京大中京というチームが、強く勝ち上がっていくのには、選手のポテンシャルだけではなく、裏づけされた根柢があるのだと感じました。

「野球は人間がするのだから、人間的向上なくして野球の向上なし。」という言葉が最も印象に残りました。

仲井先生が紹介してくださった、野村克也氏の言葉です。

最後は、そこに行き着くのだと感じました。

しかし、人間性だけが伸びれば強くなるというものではないと考えます。技術論を突き詰めて、トレーニングを積み重ねることによって、最後の最後を伸ばすことが人間性であるという気がします。

山下塾長の「全世界に通用する若者をそだてよ、世界に通用する野球をせよ。」というメッセージを胸に、今後とも努力していきたいと思います。

全国で勝てる信州野球を創造していくヒントになればと思いながら、報告書を作成させていただきました。

拙い文章と表現で読みづらい部分があるかと思いますが、ご容赦ください。

今回、私にこのような機会をくださった、日本高校野球連盟の方々、講師の方々、未熟者を送り出して頂いた長野県高校野球連盟の方々に心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

0. 目次

1. 実施要項		4
2. タイムスケジュール		5
3. 座学Ⅰ	都道府県連盟の役割	7
4. 座学Ⅱ	アンチ・ドーピングについて	8
5. 座学Ⅲ	指導者としての基本的な考え方	11
6. 座学Ⅳ	部員とのコミュニケーションの図り方	15
7. 班別討議	新入部員の指導について	19
8. 座学Ⅴ	保護者会、OB会との対応について	21
9. 座学Ⅵ	日本の球史	21
10. 座学Ⅶ	部活動の課題と役割	22
11. 実技Ⅰ	キャッチボール、トスバッティング、バント	23
12. 実技Ⅱ	内野ノック	26
13. 実技Ⅲ	投手の育成	28
14. 実技Ⅳ	打撃の基本	29
15. 座学Ⅷ	不祥事件の取扱いと防止について	31
16. 班別討議	体罰についてどう考えるか	32
17. 座学Ⅸ	チーム、個人用具の管理について	34
18. 実技Ⅴ	走塁の基本	34
19. 実技Ⅵ	ノックの実践練習	36
20. 閉講式	山下塾長からのメッセージ	36

1. 実施概要

<趣旨>

- ① 高校野球のよき指導者となるために、高校野球の歴史、指導者としての心構え、指導方法などを研修する。
- ② 受講者同士の交流を深め、指導者としてのネットワークづくりの一助とする。
- ③ 都道府県連盟とのより良い関係について研修する。

<講師>

- 山下 智茂 技術・振興委員会副委員長（元星稜高校監督）
大藤 敏行（元中京大中京高校監督）
仲井 宗基（八戸学院光星高校監督）
竹本 宏彰（富山県高校野球連盟理事長）
- 中村 哲也（早稲田大学スポーツ科学学術院）
大橋 卓生（弁護士）

<宿舎>

中沢佐伯記念野球会館に宿泊。

<事前準備>

研修会参加前に、班別討議のテーマに対するレポートを提出。

- ① 指導者としての基本的な考え方
- ② 新入部員に対して注意して指導していること
- ③ 部員とのコミュニケーションについて
- ④ 保護者との対応について
- ⑤ 体罰厳禁に対する心構え

<受講者>

- | | | | |
|-----|-------|---------|----|
| 北海道 | 山本 雄介 | 訓子府高等学校 | 監督 |
| 山形 | 吉田 真悟 | 長井高等学校 | 監督 |
| 群馬 | 原澤 裕一 | 尾瀬高等学校 | 監督 |
| 千葉 | 金澤 裕之 | 大原高等学校 | 監督 |
| 神奈川 | 佐藤 幸太 | 釜利谷高等学校 | 監督 |
| 富山 | 鈴木 新伍 | 不二越工業高校 | 監督 |
| 愛知 | 丘 友嗣 | 岩津高等学校 | 監督 |

滋賀	村田 潤平	安曇川高等学校	顧問
大阪	藤田 悠介	藤井寺工科高等学校	監督
岡山	飯田 圭介	備前緑陽高等学校	監督
山口	佐々木 浩一郎	豊北高等学校	監督
高知	梶原 大輔	高知農業高等学校	監督
熊本	石橋 光雄	八代高等学校	監督
沖縄	徳山 篤史	球陽高等学校	監督
岩手	遠藤 利治	一関第二高等学校	監督
福島	後藤 浩之	会津学鳳高等学校	部長
埼玉	荒木 良仁	所沢商業高等学校	部長
東京	遠藤 愛義	東海大菅生高等学校	責任教師
福井	井川 潔	大野高等学校	部長
三重	北村 祐斗	紀南高等学校	副部長
奈良	池田 靖幸	十津川高等学校	部長
兵庫	東 佑樹	西宮東高等学校	監督
広島	正田 靖人	盈進高等学校	監督
愛媛	友近 拓也	川之江高等学校	監督
佐賀	松尾 洋明	佐賀商業高等学校	部長
宮崎	山内 靖雄	小林秀峰高等学校	監督
長野	柳瀬 元	木曾青峰高等学校	監督

2. タイムスケジュール

<1日目>

時間	講習内容	講師担当(敬称略)
13:00～13:30	開講式 挨拶講師紹介、受講者自己紹介日程説明	山下
13:30～14:15	座学Ⅰ 都道府県連盟の役割	竹本
14:15～14:20	休憩	
14:20～15:20	座学Ⅱ アンチ・ドーピングについて	JADA
15:20～16:05	座学Ⅲ 指導者としての基本的な考え方	仲井
16:05～16:10	休憩	
16:10～16:55	座学Ⅲ 指導者としての基本的な考え方	大藤
16:55～17:05	休憩	
17:05～18:05	座学Ⅳ 部員とのコミュニケーションの回り方	山下、大藤、仲井
18:05～18:50	食事	

18:50～19:00	班別討議の説明、移動	
19:00～19:50	班別討議 ①新入部員の指導について	山下、大藤、仲井
19:50～20:00	休憩、移動	
20:00～20:20	各班の報告、全体討議	
20:20～20:40	座学V 保護者会、OB 会との対応について	竹中
20:40～21:00	座学VI 日本の球史	井本

<2日目>

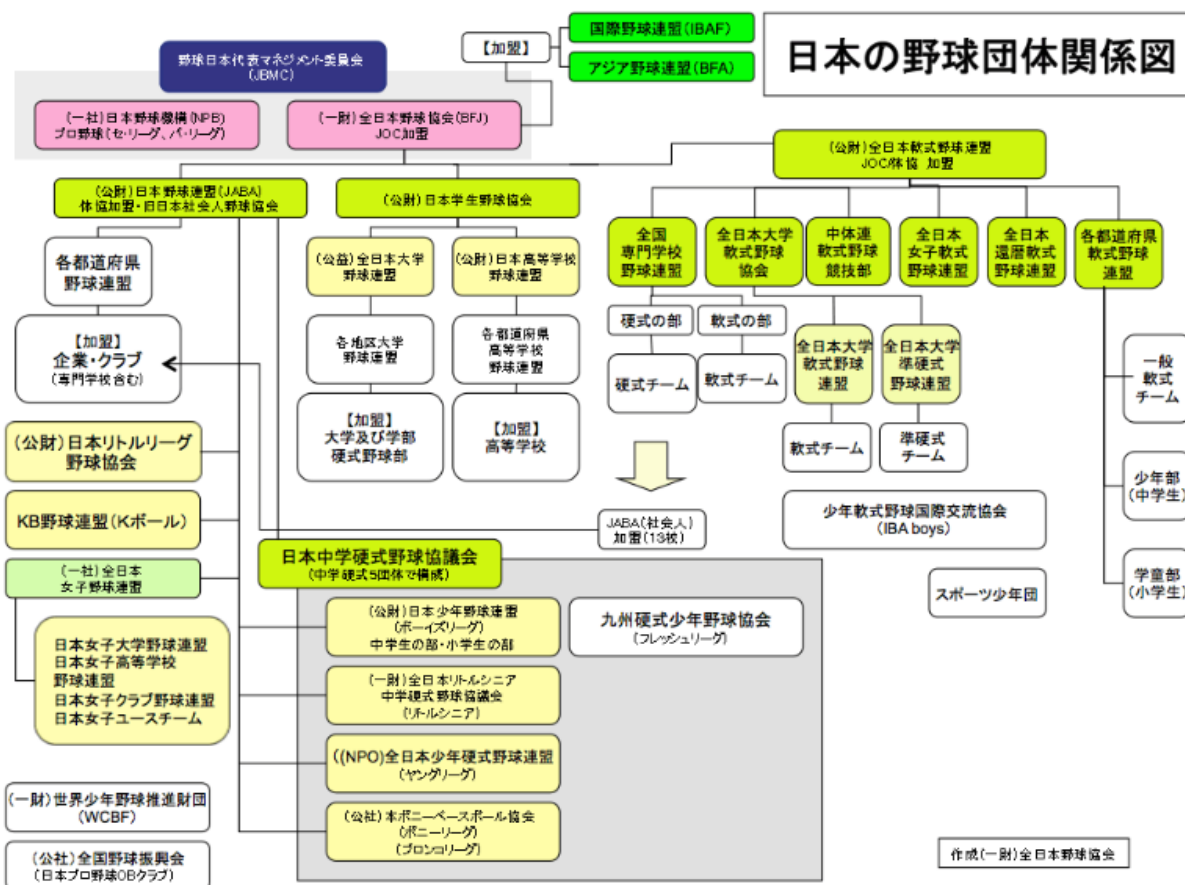
6:30	起床	
7:00	食事	
8:00～8:45	座学VII 部活動の役割と課題	
8:50～	移動（バスで市尼崎高校へ）	
9:30～11:30	実技I キャッチボール、トスバッティング、バント	山下、大藤、仲井
11:30～12:15	食事	
12:15～14:00	実技II 内野ノック	山下、大藤、仲井
14:00～14:15	休憩	
14:15～15:15	実技III 投手の育成	仲井
15:15～16:15	実技IV 打撃の基本	大藤
16:15～	移動（中沢佐伯記念野球会館へ）	
17:10～17:55	座学VIII 不祥事件の取扱いと防止について	西岡
17:55～18:10	休憩、移動	
18:10～19:00	班別討議 ②体罰についてどう考えるか	
19:00～19:45	各班の報告、全体討議、講師からの助言	山下、大藤、仲井
19:45～	食事	

<3日目>

6:30	起床	
7:00	食事	
8:00～	移動（バスで市尼崎高校へ）	
9:00～9:30	座学IX チーム、個人用具の管理	山下
9:30～10:30	実技V 走塁の基本	仲井
10:30～10:40	休憩	
10:40～12:00	実技VII 前日のノックの実践練習	山下、大藤、仲井
12:00～12:15	質疑応答	
12:15～13:00	食事	
13:00～	閉講式	

3. 座学 I 都道府県連盟の役割 竹本宏彰氏

<日本の野球団体について>



<公益財団法人日本学生野球協会>

- ・高校と大学の野球を統括している
- ・学生野球憲章を定めている
- ・教育を受ける権利を保障し「教育の一環としての野球」を推進する

<日本高等学校野球連盟と都道府県高等学校野球連盟>

- ・高校野球の健全な発達が目的
- ・業務内容
 - 大会、総会、文章受発信、不祥事処理、保険加入、ホームページ運営、研修、審判部、経理、表彰、役員、他団体の調整など
- ・19団体が一般財団法人化
- ・ほとんどが学校内に事務所があるが、財源が豊かな所は学校外にある

<富山県高等学校野球連盟の取り組み>

- ・地域活力の一端を担っている
- ・加盟校と連盟の団結
- ・県全体のレベルアップ

選抜チームで台湾遠征、上位チームへの支援（戦力分析などに長けた人を派遣する）、若手の意識改革「俺たちでもできる」、ベテランを腐らせない、記録紙の作成、審判員を大切にする（野球を愛している人たちの集まり）

4. 座学Ⅱ アンチ・ドーピングについて JADA

<アンチ・ドーピングと JADA>

- ・国際大会ではドーピング検査が行われる
- ・ドーピング→禁止薬物・道具でパフォーマンスを上げることや使用を隠すこと
- ・年間 5000 件ほどの検査を行っている
- ・JADA→ドーピング撲滅のための組織
- ・新学習指導要領の体育理論で取り扱われている
- ・ジャック・ロゲ（IOC）→オリンピックの開催に関して「IOC 委員がアンチ・ドーピング活動の取り組みに注目したことは明白」と発言
- ・アジアへの推進活動を行っている

<何のためにスポーツをするのか>

- ・金メダルよりも重要なものがある
⇒スポーツの価値「フェア」

<フェアプレーに必要な要素>

- ・エクセレント→自分を信じる
- ・フレンドシップ→仲間を信じる
- ・リスペクト→相手を尊重する

ドーピングはこれらを破壊する→健康が損なわれる、信頼を裏切る
自分の可能性の否定

<スポーツは世界共通の文化である>

- ・PLAY TRUE→スポーツ
- ・アンチ・ドーピング→価値を守るためのもの

- ・ Winner (ゴールや1勝) でなく Champion (勝ち尊敬される行動をする) であれ

<世界アンチ・ドーピング規定>

- ・ WADA がまとめ
- ・ スポーツの舞台がフェアであるため
- ・ クリーンなスポーツに参加するアスリートの権利を守るため

<アンチ・ドーピングのルール>

- ・ 「クリーンの証明」
- ・ 厳格責任→疑わしきは罰すること
- ・ 証明責任→どうして、誰によって、どう取り込んだか証明すること

<選手の役割と責務>

- ・ ルールの理解
- ・ 対応 (検査など)
- ・ 取り入れるものには責任を持つ
- ・ アスリートとしての立場を医師に伝える
- ・ 過去の違反を伝える
- ・ 捜査協力

<アスリートの違反>

- ・ 生体に違反薬物が存在する
- ・ 違反薬物の使用を企てる
- ・ 検査の拒否
- ・ 居場所を伝えるなどの義務違反
- ・ ドーピングコントロール (検査手順) の一部改ざん
- ・ 所持
- ・ 医師などの投与
- ・ 使用の援助 (2015年追加)
- ・ 違反者をサポートスタッフにすること (2015年追加)

<違反した場合>

個人

- ・ 選手資格停止
- ・ 選手資格剥奪
- ・ 大会に派遣されなくなる

- ・強化費の停止

全体

- ・競技イメージ低下
- ・社会的信用の低下
- ・国際総合大会から外される

<サポートスタッフ>

- ・ロールモデル（模範）
- ・影響力大
- ・アスリートの価値観
- ・行動
- ・サポートスタッフの違反を規定

<2013年6件6名の違反>

- ・サプリ、医薬品、漢方薬→病院やネットで購入
- ・経路不明の場合→2年の制裁
- ・体内に取り込むものの正しい情報を得ること
- ・医薬品は表示義務あり、サプリメントはなし
- ・専門家に相談する
- ・JADA 公認スポーツファーマシスト（薬剤師）

<気をつけておきたいこと>

- ・アスリートと伝える
- ・正しい製品名を覚える（顆粒と錠剤では成分が違うことがあるため）
- ・塗り、貼り、目薬も気をつける
- ・特に海外製のものは気をつける
- ・治療目的使用の許可制度（TUE）がある

<野球の場合>

- ・都市対抗、社会人選手権大会は30日前までに申請が必要

※今回講習を行ったが、選手権大会などですぐに実施するという予定はない。

5-1. 座学Ⅲ 指導者としての基本的な考え方 仲井宗基氏

<プロフィール>

甲子園での勝率 7 割以上を誇る
大阪府出身で選手時代、桜宮では大阪大会準優勝、東北福祉大では 3 年時に控え捕手として全国優勝。

大学を卒業した 1993（平成 5）年、光星学院（当時）のコーチに就任。

その後、現在は茨城県の明秀学園日立を指揮する金澤成奉監督を支え、部長として指導にあたった。

金澤監督の退任により、2010（平成 22）年 4 月、監督に就任した。

勤務 22 年、監督 5 年、夏 7 回、春 7 回の甲子園出場。

<始まり>

- ・フェンスがない
- ・学校から 7k m も離れている
- ・周りは鳥小屋、牛小屋、豚小屋で臭い
- ・部員 17 名からのスタートで入る前年は公式戦 0 勝
- ・強くするために県外から選手を勧誘して強化した

<目的と目標に分けて考える>

- ・目的：野球を通して社会に通ずる人間教育
- ・目標：甲子園、全国制覇
- ・見失うこともあるが、目的を見失うと勝てない

<野村監督の言葉>

- ・「野球は人間がやるのだから、人間的向上なくして野球の向上なし」
- ・高校野球の監督は親以上の影響力をもっている
⇒生徒に誠心誠意向き合う
- ・1 に勉強、2 に学校、3・4 がなくて、5 に野球

<指導スタッフが 1 本になる>

- ・4 名のスタッフ
- ・毎日のミーティング
- ・第一に学校の仕事（授業）をやる（やっているつもり）
⇒ちゃんとやらないと選手はついてこない
- ・選手は指導者の姿を見ている

- ⇒スタッフが見本となる生き方をする
- ・選手に伝わると信じる

<野球の技術は足りていない>

- ・最近の選手は「セオリー」がわからない
 - 例)ランナー1塁でバントする方向や理由が不明
- ・新チームになったらできないことの繰り返し
- ・教えることをしないと後に大きなダメージとなる
 - ⇒「根気良く、同じことを言い続ける」
- ・選手が失敗したときに、「裏づけとなる練習をしたのか？」と自分に問う
- ・同じことを繰り返す行動力が必要
- ・1番悔しいのは選手
- ・悔しい思いをさせないようにするのが指導者の仕事

<自分たちが向上心を持つ>

- ・野球技術と指導法は日々進化している
- ・これだけやっていたら良いではダメ
 - チームにあった方法を見つける→多くの引き出しを持っていること
- ・知らない野球が必ずある

<親との関係>

- ・保護者会の力を借りる
- ・個人的な付き合いはしない→現場に介入してくる
- ・サポートだけ願います

<チームの強化>

- ・「負けの責任なんて取れない。責任を取ることは勝たせること。」
- ・年中調整
 - ⇒年12回の山を作る（強化と抜き）
 - 例)月にここと決めた1回の試合に合わせる
- ・12回やれば自分自身の状態に気づく、スタッフも個人差に気づくようになる

<選手が100%の力を発揮するために>

- ・不要な上下関係をなくす
- ・指導者の過度なプレッシャーをなくす
- ・調整のあり方を考える

- ・選手は監督が怖い、そして尊敬している
- ・高校生の時は技術や人間的成長に大きく関わる
⇒細心の注意が必要

<体罰について>

- ・当たり前だった
- ・正しいと思っていた→悪いことだと思わずにやっていた→完全な間違い
- ・前監督に「なんで殴るのか？」と問われた
- ・技術と性格に悪影響を与える
- ・カッときた時にしゃべると落ち着く
- ・殴る→感情をぶつけているだけ→上手くならない
- ・恐怖での支配→もっともレベルが低い
- ・スタッフの機嫌を伺う選手になる
- ・体罰＝指導者の自信の無さ
- ・自分たちは間違っていたと気づく世代
- ・親が殴る→子どもも殴る→先輩が後輩を殴る
- ・指導者には「何度も何度もわかりきったことでも伝える根性が必要」

5-2. 座学Ⅲ 指導者としての基本的な考え方 大藤敏行氏

<プロフィール>

中京高校時代は 2 年生の時に第 61 回全国高校野球選手権大会に三塁手として出場し、3 回戦まで進出。

卒業後は中京大学へ進学。その後は静清工業高校のコーチに就任し、1990 年から母校の中京高校監督に 28 歳で就任。

1997 年の第 69 回選抜高校野球大会に監督として初めて甲子園に出場し、決勝まで進出して準優勝。校名が中京大中京高校に変わって初の甲子園でもあった。2000 年には第 82 回全国高校野球選手権大会で選手時代以来の夏の甲子園へ出場した。

2009 年の第 91 回全国高校野球選手権大会で決勝まで進出し、決勝で新潟県の日本文理高校を 10-9 で破り、同校の 43 年ぶり 7 度目となる優勝へ導いた。

甲子園出場は夏 4 回、春 5 回の出場。

<考え方が変化した>

- ・最終的に「人間的成長」というところに行き着いた

<東邦高校に良い選手と良い監督がいた>

- ・決勝の日に相手選手が来ない
 - 自分のところのグラウンドで打ち込みをしていた
 - 到着してランニングをすると、球場の空気が相手のものになっていた
- ・国体に向けた監督不在の3年生と練習試合をした
 - 監督不在でもキビキビとしハツラツとしていて元気が良かった
 - 監督としての違いを感じた
- ・自分のチームは敗戦後に反応が変わった
 - 「よっしゃー！」から「へっ」となった

<H8年の秋に勝ってH9年の選抜に出場（それまでに6年で12回負けた）>

- ・勝てないことをハード面の責任にしていた
 - グラウンドがない、雨天練習場もない、人もとれない

<勝てるチームができたが・・・>

- ・6年目に部員16人
- ・やれると思ったがベスト4で負けた（準決勝までコールド勝ち）
- ・授業中に寝ている
- ・乗車マナーが悪い→一緒に乗って指導することもあった
 - ⇒やっぱりエラー
- ・人間に波があつたら勝ち続けることは難しい

<やめようと思ったがやめられなかった>

- ・「東邦みたいなチームを作ってみよう」
- ・草むしり、ボール拾い、ごみ拾い→当たり前のことを当たり前にやる
- ・捕手が粉碎骨折をしたがセンバツへ出場

<嶋選手の話>

- ・中学時代の成績はオール5
- ・技術はまったくダメ
- ・高校入学後
- ・2年の夏までB戦（控え選手の試合）すら出ていない
- ・1つ上がいなくなってマネージャーになると言ってきた
 - 最高の申し出だと思ったが、最後にもう1回やってみろと伝える
 - 活躍する
 - さらに活躍する

⇒センバツ出場へ

- ・人間がしっかりしてこなければ練習しても意味がない
- ・自分の取り組みやチームの取り組みが大きく影響する

<嶋選手という人間は>

- ・毎日コツコツと努力ができる
- ・目的を短期と長期に定める
- ・「今、何をするのか」
- ・「当たり前のことを誰よりもきちっとやる」
- ・「決意表明」→不遇な時に大藤氏へ手紙を書いた

<指導>

- ・昔：鍛えれば鍛えるほど強くなると思っていた
- ・今：いかに力を発揮させるか、いかにチャレンジさせるか→人間力が必要
- ・練習でできたことしか試合でできない
- ・ああしろ、こうしろでなく、何を求められているのか理解してやる
270本のノック→100本のノック（選手からの要求を受けて行う）
- ・どんな思いでやったのか
- ・基本の繰り返し
- ・計画を立てる
- ・日常生活の充実
- ・「誰かのミスを自分が背負える。それが野球。」
- ・目標に向かって努力（挑戦）をし続ける

6. 座学IV 部員とのコミュニケーションの図り方

<仲井氏>

- ・現在 132名の部員
- ・指導者間のちょっとした会話が選手の励みになっていると感じる
- ・授業・担任をするなかでの別の顔での会話をする
- ・寮生活で生活が見える
- ・言いづらいことを言うために意見箱を設置→つまらない上下関係の排除
- ・大きな悩みにならないように事前に芽を摘む
- ・ブログで飲酒が発覚した

しかし、今も携帯電話の使用は禁止していない

→親との連絡に必須

→何かあれば親のルートから監督へ

- ・ SNS の使用は制限

<大藤氏>

- ・ 1~3年生までと一緒に昼食をとる（30分）
- ・ 10分間は選手と雑談をする
- ・ できるだけ野球以外の話をするようにしていたが、難しい
- ・ 野球ノートは曜日を変えながら見ていた
- ・ 細かい配慮ができるマネージャーがいた→後輩を指導
- ・ 父兄会は変なしきたりをなくした
→有給を使ってまでお茶当番をしていた
- ・ 年に1回だけ一緒に会を持つ

<仲井氏>

- ・ 生徒とからすると監督は監督、コーチはコーチ
- ・ 歳は関係ないと思う
- ・ 子どもができてから、自分の子どもと同じように指導できるようになった
- ・ なめられたことはない
- ・ 暴言や不貞腐れたことはない→誠心誠意向き合うこと

<大藤氏>

- ・ 初めての3年目の卒業生
補欠を大学に取ってもらったのにお礼をしなかった
→電話で叱られた→群馬まで行ったが帰らされた
- ・ 翌日、本当の良いところを素直に出した方が良いとアドバイスされた
- ・ 自分に自信が出て変わった
- ・ 「しなければいけない」を捨てた→自分の良い所を出す

<山下塾長>

- ・ 生徒が好きということが大前提
- ・ 生徒と一日5回話す
成績の話や親の話など
- ・ 生徒が嫌いなことをやらすと伸びる
- ・ 3分間スピーチ

- ・新聞を読んで対話する
- ・カレーパーティーやカラオケパーティーを行い、食べる姿や歌う姿を見る
- ・夏休みはAM7:00からキャプテンとマネージャーと練習について話す
- ・生徒の情報ももらう→怪我や彼女ができたかなど
- ・良いキャプテン、良いマネージャー、良い補欠を作る

Q. 近すぎると威厳がなくなるのではないか？

<仲井氏>

- ・威厳はそもそも必要なのか？
- ・近いことはいけないことなのか？
- ・誠心誠意付き合えば尊敬される
- ・近いのも遠いのもダメ
- ・横浜高校の渡辺監督は選手とメールをするらしい

<大藤氏>

- ・やってみて失敗したらやり直せば良い

Q. 組織としてのコミュニケーションはどうしていますか？

<仲井氏>

- ・部長もコーチも教え子
- ・毎日ミーティングをする
例) 学校でだらしなかったから叱った
→コーチに噛み砕いて伝えておいてくれと頼む
- ・監督から指示を出す
- ・みんなで怒らないようにする

<大藤氏>

- ・基本的に1人でやる
- ・コーチには大学生をつける
- ・日大三高→コーチが烈火のごとく起こる→監督が励ます

<山下塾長>

- ・1人でやってきた
- ・監督は父、部長は母→逆もあり
- ・仲が良いということが大切
- ・お互いにリスペクトしあう

- ・オレがオレがの監督と影になって支えてくれる部長が必要

○ケーススタディ：コミュニケーションを考える

秋の大会で敗退し、チームの士気が低下。監督・コーチは体力作りから取り組もうとした。夏の優勝を目指して基礎練習を中心に再出発したチームで実際に起こった。

コーチは、ムードメーカー的な太郎に期待していた。太郎は、2年生の新チームから見違えるほど前向きに練習に取り組んだ。コーチは毎日、太郎にノックを打ち続け、9番を手に入れ、顔つきも明るくなった。

走りこみのメニューに対して、太郎は「だるい」「どうせ甲子園いかれへんのし、こんな練習やらされなだめなん」「うっとうしい」「うざー」「こんな練習やってられるか」という態度になった。

コーチは「信頼していたのに、なぜだ」「レギュラーしての自覚はないのか」「チームのやる気がそがれるのがわからないのか」「なぜあんな態度をとるのか」と思い、手をあげてしまった。

あなたならどういったコミュニケーションをとりますか？

<仲井氏>

- ・必要性を理解させる
- ・必要性>キツさだとダメ
- ・乗ってこないことはやめる
- ・「何のために」という目標を見失わないように練習させる
- ・ミーティングで合わせる
- ・やらされている
- ・コーチの思いは勝手に思っているだけ
 - 思いをわかる選手はいない
 - ⇒しっかり伝えることが必要
- ・目的意識を持って臨めるように意識改革をする

<大藤氏>

- ・負けたけど、こうやって頑張ろうと伝える
- ・選手が乗らない練習に対しては①組織としてやめる②個人としてやめる方法がある
- ・練習に対するチェック（分析）が足りないと起こる
- ・キツイことをいかにテクニックにつなげていくか意識づける

<山下塾長>

- ・夏準優勝をして秋の大会で敦賀気比にコールドで負けた
- ・バッティングが良くなるから信じてノックを受けろと言った
- ・ショートがぶち切れしていなくなる→話をする→甲子園で一番打った
- ・監督が「こうだよ」という裏づけを持つこと
- ・指導者は選手の10倍努力しろ

7. 班別討議 ①新入部員の指導について

<A班>

- ・家庭の状態を把握
- ・面接の記録
- ・野球を好きにさせる
 - 週1で5対5のゲーム
- ・中学校との連携
- ・OBの講演会
- ・選手の情報のアンテナを高くする
- ・入部時に説明会を行う
- ・日々のコミュニケーション

<B班>

- ・1人ひとりが大切だと伝える
- ・選手が多い所はそっぽを向いてしまう生徒もいる
 - ① 目的が何で目標が何か
 - ② 個を大切に
 - ③ 時間を共有
- ・後輩の指導は先輩が行う

<C班>

- ・存在価値
- ・帰属意識を高める
- ・部の指導方針を保護者も含めて共有する
- ・何かしらの合図に気づく
- ・好きで入部したのだから練習をさせる

- ・好きな野球をもっと好きにさせる
- ・生徒を引きつける魅力を持つ

<仲井氏>

- ・親身になって話を聞く
- ・指導者が選手をよく見て感じてやれる力を身につける

<大藤氏>

- ・傷が浅いうちに処理する
- ・喜びや楽しさを与えることが大切だと改めて思った

<山下塾長>

- ・保健室の先生から情報をもらう
- ・マネージャーとの対話
- ・負けよりやめる方がショック
- ・38年間スカウトしなかった
- ・選手が来たいと思う監督になる
- ・県外を取ると派閥が作られるので取らない
- ・シニア・ボーイズ→生意気
- ・軟式→毎日練習できる
- ・1年礼儀2年努力3年感謝
- ・やめさせないことが基本
- ・やめたいと言われたら3日が勝負
- ・3日できれば、3ヶ月できる、3ヶ月できれば3年できる、3年できれば30年できる
- ・自分の野球はこうだと伝える
- ・預かった以上はビシッと卒業させる
- ・ベンチ入り選手は選手・マネージャーの投票→どこからも文句は出ない
- ・人とはどういうものなのか、男とはどういうものなのかという「人間学」を教える
- ・本と新聞を徹底的に読ませる
- ・チームの学年構成は10:5:3→チームが長続きする

8. 座学V 保護者会、OB会との対応について 竹中雅彦氏

<保護者対応>

- ・保護者との対応は数多くやる
 - 4月 顔合わせ
 - 7月 夏大会前
 - 9月 新チーム
 - 12月 締め總會
- ・高野連が一番対応に苦勞するのが保護者
- ・会話の時間を多くすることによって減る

<顧問の意思統一>

- ・何を言われても同じ答えが返ってくる→保護者も安心で文句のつけようがない
- ・監督がむちゃくちゃでも**仲良く意思統一**をする

<クレーム対応>

- ・ぐうの音がでないようにデータを取っておく
- ・部長と監督はお金に触れないようにする

<保護者会とOB会>

- ・対立が起こってしまうことも→「一本化と意思統一」が必要

<アドバイス>

- ・家庭を大切にすること
- ・高野連は指導者と高校生の味方

9. 座学VI 日本の球史 井本氏

- ・歴史を学んで引き出しを増やす
- ・生徒を引きつけるイントロダクション
- ・本日は時間がないので、各自に調べてもらいたい

<コーチの由来>

- ・名詞 4輪の馬車
- 動詞 導く

⇒ある地点からある地点まで安全に運ぶこと

<アドバイス>

- ・選手は頑張っている背中を見て育つ
- ・不祥事 1,000 件/年 2,3 件/日
→体罰は 0 にはならない 増えたり減ったり
⇒やっている方が恥ずかしいという環境を作る

10. 座学Ⅶ 部活動の役割と課題 竹本宏彰氏

- ・「生きる力」を育む
- ・部活動の意義→社会の教育力の活用

<抱えている問題>

- ・時間外勤務
- ・専門外
- ・部活動への関わり（する人・しない人）
※強制はできない

<高校野球の抱えている問題>

- ・監督のなり手
- ・部長のなり手
雇われ部長→部長の楽しみを感じる→富山県では部長の研修会を行った
事務処理
- ・校務分掌→若手にグラウンドに出て欲しい

<学生野球憲章>

- ・校長が最高責任者
- ・高校野球特別規則
- ・週に 1 回は休みを入れる→憲章に規定

<大会運営>

- ・平日開催不可のため 3 連戦までは仕方がない（富山県）

<プロからの資格回復>

- ・プロ側 2 日、アマチュア側 2 日の講習を受ける

<部活動としての野球>

- ・野球部の存在→学校を背負う、他の見本 指導者も校務を人並み以上にやる
- ・生徒→当たり前のことをする
- ・不祥事→監督などの体罰行為厳禁
- ・他の部活との関係
 - 協会主催→教育的視点が保たれているとは言えない
 - 野球は憲章があるから保たれている
- ・部員と先生が学校に認められるか→応援されるように
- ・経費→外部との関係

<指導者の役割>

- ・プレーヤーズファースト
- ・負けから学ぶ高校野球
- ・マスコミ対応→部長
- ・組織マネジメント
- ・指導者の育成
- ・感謝の気持ちを次に生かす指導

⇒県全体のレベルアップを図る

<アドバイス>

- ・1人で悩まない、自分をオープンにすること
- ・生徒は教室では学べないことを学ぶ
- ・部員・指導者が修羅場・土壇場・正念場を乗り切ろうとして成長
- ・青少年の健全育成が目的

11. 実技Ⅰ キャッチボール、トスバッティング、バント

1. オープニングメッセージ

<山下氏塾長>

- ・トイレ・環境整備
- ・上手くなるための
 - ① やる気
 - ② 打つ姿、走る姿、守る姿を美しく
- ・当たり前が1番危険

<仲井氏>

- ・行き詰まったときのオプションとして受け取って欲しい

<大藤氏>

- ・感じる力を伸ばす

2. キャッチボール

<山下塾長>

- ・キャッチボールに始まりキャッチボールに終わる
- ・正確に早く強く
- ・大阪桐蔭が1番のキャッチボール
- ・5つの約束
 - ① 捕りやすいところへ投げる
→思いやりの力、相手のミスをもミスに見せない
 - ② 暴投したら謝る→マナー
 - ③ 暴投したら取りに行く→ルール 野球は2000のルールがある
 - ④ 当たったら痛い→危険察知
 - ⑤ ナイスボール→相手を認める

<仲井氏>

- ・ボールの高さに目線を入れる→自然と重心が下がる
- ・ボールの所（ボールの下）に軸足を出す

<大藤氏>

- ・ボールが来るところを直角にさえぎる
- ・プレーは連続動作
捕る→投げ手で掴む→見て→投げる
※「見て」とは、どこにどんなボールを投げるのか見ること
- ・ダブルプレー
→ショートからセカンド体を開いた方が捕り手にボールが見えやすい
- ・軸足を優しく強く踏む→力が乗る
- ・肩の怪我をしないポジション（ゼロポジション）
→手を頭で組んでテレビを見ているポジション

<仲井氏>

- ・握り替えが上手くいかない
→しっかり捕れていない証拠

<山下塾長>

- ・仲良しコンビでキャッチボールをしているのはダメ
- ・投手は投手同士で長くキャッチボールをする
- ・野球で必要なコンビを組む（二遊間など）

3. トスバッティング

<山下氏>

- ・いかにトップを作るか
- ・5～6m離れてノーバンかワンバンで返す
- ・ボールの7mm下を、グリップを直線的に、ヘッドを落とさずに打つ
- ・ボールの内側を叩く
- ・松井はティーでスピンをかけていた

<仲井氏>

- ・タイミングなのかバットコントロールなのか目的意識を持たせる
- ・仲井氏的にはバットコントロールを意識させる

<大藤氏>

- ・右手を体の近くを通す
- ・投手側の膝が開かない
→投手側の股関節と膝から杭が打たれているように
- ・ボールが遠ければ軸足を動かして打つ

<仲井氏>

- ・投手が動くのと同時にタイミングを合わせる

4. トップの位置を作る

<大藤氏>

- ・トップ→間が作れて、自分のタイミングでバットを振り出せるところ
- ・トップの形成
ゆっくりバスター
後方45°からのティーで止める

- ・後ろ手と体の距離を一定に保つ
- ・トスバッティングでも遠くにボールが来たら軸足を動かして打つ
手と体が離れないように打つ
- ・前へ力を発揮させると前軸で収まりやすい
- ・右バッターのおっつけで率は上がる

5. バント

<仲井氏>

- ・インパクトはステップした足のところ（バッティングも同じ）
- ・後ろになるとボールは上がる
- ・手は早く動くので膝を使って動かす
- ・王選手→バントとランニングでスランプ脱出
- ・高めの変化球を下から上へ追いかけると失敗する
- ・バットは外角高めに合わせる

<大藤氏>

- ・立ち位置は後ろ→時間が稼げるから
- ・コースも狙える
- ・前だと体に迫るボールがキツイ
- ・バントはバレてもかまわない

<仲井氏>

- ・打つ位置で構える→バントだとバレないようにするため

12. 実技Ⅱ 内野ノック 山下智茂氏

<説明>

- ・選手との対話
- ・第一ゲームと第三ゲームでは、ノックを変える
- ・天気によっても変える
- ・朝はゆるい打球で体を動かす
- ・グラウンドコンディションをよく見る
- ・練習時も内野整備に1時間
- ・グラウンドと対話
- ・「こういうノックを打とうと思う」
- ・1年が水をまくとグラウンドが怒る

- ・ 3年だと気持ちが入る
- ・ 38年間毎日やるとわかる
- ・ ケガをさせないようにと整備をしながらお願いする
- ・ 牛乳瓶の上にボールを置いてノックで落とす練習をした
→牛乳瓶だと失敗して割れた場合、自分で破片を拾わなくてはならない
- ・ 経験は財産
- ・ ケガをさせないようなノックを打つ努力をする
- ・ 1mmでも守備範囲が広がるように
- ・ ボトムハンドでノックバットを持つ→開かないので良い
- ・ ボール出しのタイミングが肝心
→良いボール出しを育成すること
- ・ ボールを上げた時に片目でボール、片目で選手を見る
- ・ 視野を広く→早く打てる、次の次まで見る
- ・ しゃべるタイミング、立ち位置まで考える
- ・ 準備をする→早く動ける

<通常ノック>

- ・ 左右にゆるくノックを打つ
- ・ 3つの声
予測の声、励ます声、ボールを呼ぶ声
- ・ 戻るときに背中を見せない
- ・ 球際に強い→勝てるチーム
入ったと思っ**てからの最後の最後が大切**
- ・ 肘が出たらバント→肘の動きで判断
- ・ 甲子園にはエアポケットと言われるところがある
ショート、セカンド、センターの間→甲子園ではショートが捕ること

<瞑想ノック>

- ・ 黙ってノックを捕る
- ・ 監督も黙って打つ→声の重要性の認識
- ・ 甲子園のエラーはファインプレーの後に起こる

<イメージノック>

- ・ ヘッドが返ったか返らなかったかで判断をする
- ・ 来ているはずのボールをよく見て捕り、送球する
- ・ 受ける選手は、ボール持っておく

<ケンカノック>

- ・周りも声を出す
- ・近い距離でどンドン打つ
- ・周りの選手が捕らせる
- ・キャプテンに優勝旗を持たせるために
- ・どうすれば良いか考えさせる→つれてってやる→周りを近づける→分かち合う

<山下氏の指導スタイル>

選手を子どものように扱う。終了後に自分のタオルで顔を拭いてやっていた。指導の合間に冗談も交えて、選手との距離を詰めていた。

<大藤氏>

- ・個人ノックは6月に行う
- ・守備もリズム
投手の投球とあっていることも重要
→高い場所から守備全体のタイミングの取り方を見る
- ・トスバッティングで1・2のタイミングで捕る
- ・キャッチングポイントを掴む
- ・プロ→守備練習の最初は捕らない タイミングが合った時だけ捕る

13. 実技Ⅲ 投手の育成 仲井宗基氏

<説明>

- ・投手にとって最も大切なことはコントロール
- ・コントロールは理にかなった投げ方をすれば身につく
- ・下半身を使って投げる
- ・体から手が離れないように投げる→離れるとバッターから見やすい

<ロッキング>

- ・くるぶしと前足が直線
 - ・頭が突っ込まないようにして軸を立てる
- ① ここまで行くぞを作る
 - ② 後ろ足に乗せる
 - ③ 後ろ足の母子球を中心に回る

④ 足を蹴らないことで回転軸を生む

- ・ 投球動作の1コマ作り
- ・ 上から回すと突っ込む
- ・ 下から回すと軸が立つ

<大藤氏>

- ・ 前足はロックして前股関節の屈曲内転を作る
- ・ 後ろに乗りすぎると回らない

<仲井氏>

- ・ 右足と右股関節のひねりはリターン（戻し）で作る

14. 実技IV 打撃の基本 大藤敏行氏

<説明>

- ・ トップ→自分のタイミングで振り出せるところ
- ・ 回転を止める力で打つ→止める動作作り
- ・ 腰が止まって腕が止まってグリップが止まって振る

<前軸の形成>

- ・ 足揃え（振れる）→前足立ち（振れる）→後ろ足立ち（振れない）
⇒だから前軸で振る
- ・ 後ろ足でスイングすると不安定かつスイングが大きくなる

<箱に後ろ足を乗せてのティー>

- ・ ボールかごなどに後ろ足を乗せる
- ・ 前足に体重をかけてスイングする

<スクワットポジションからのティー>

- ・ ズボンのマーク（後ろの股関節）が前膝に突き刺さるように回転
- ・ 低い姿勢でスイングをし、軸作りと回転力をつける

<軸足を踏んでからのティー>

- ・ 軸足を優しくしっかり踏む

- 後ろの股関節に乗せるイメージ作り、感覚作り
- ・ボールを予測して振り抜く

<後ろ 45° からのティー>

- ・トップ作りと前への回転移動
- ・前軸で回転できればドアスイングにもアッパースイングにもならない
- ・前の腰、肩、肘を止める

<仲井氏>

- ・後ろに傾くように指導する
- ・軸は前、重心は後ろ
- ・ツイストで打たせて練習する
- ・後ろ股関節にバチッと入ってからスイングする
- ・トップは一瞬で止まらない
- ・見逃す時も体を回してやめる

番外編 捕手の育成 仲井宗基氏

- ・キャッチャーはスローイングが良くないとダメ
- ・ボールは体の中に持ってくる 速く力でグッと
- ・基本的に足は動かない
- ・足はその場でグッと踏む
- ・2塁手のダブルプレー（左足でベースを踏み右足を踏む動き）で乗せて切る動きが身につく
- ・しっかり捕って、握り替えをする
- ・サインは味方に見えていないかチェックしてもらう

<山下塾長>

- ・投球練習は1分間に7球ペース→これより遅いと甲子園では急かされる
- ・投手はエラーした野手にテンポがどうだったかチェックする

15. 座学Ⅷ 不祥事と取り扱いと防止について 西岡宏堂氏（審議委員長）

- ・暴力は後になって上がってくるケースが多い
- ・その時は殴られることを認めてしまっている
- ・本人は殴られることを納得している
- ・見ていた生徒の親から上がる
- ・顧問が校長に報告しているケースは半分
- ・担任から校長に報告が行くことも
- ・当事者間はOKでも周りは許さない
- ・いかに言葉を使ってコミュニケーションをとるか→本を読んで勉強せよ
「やる気を奪う魔法の言葉 VS やる気を起こす魔法の言葉 著者：岩崎由純
発売：中央経済社」
- ・どんな言葉を選ぶのか→「は」と「も」の使い方に気を配る
→いつも見ているということに繋がる
- ・相手の気持ちを高める、励ます→コミュニケーション力
- ・体罰は自分を裏切る行為
- ・禁固刑以上は教員免許剥奪
- ・能力＝意欲×教え方 教え方が間違っていると全てがマイナスとなる
- ・素直に受け入れられない
- ・ほめた上で叱る
- ・表現を工夫する
- ・志を立てよ
- ・努力する天才だから（自分に厳しく）優しい人であれ（いじめ暴力はしない）
→仲間の友情に繋がる
- ・情熱的で一生懸命ではダメ
- ・熱い指導者ではなく、あたたかい指導者であれ
- ・保護者が高野連はダメだとなると新聞社へ話を持ち込む
- ・報告していないと聞いていないで終わってしまうことになる
- ・野球とは考える力を養うことができるスポーツ

<アドバイス>

- ・自分の子どもとの時間がない
- ・親なのに親らしいことはしていない
- ・母親に任せた以上、口は出さなかった→今は相手にされない
- ・捨てられてしまう→離婚する高校野球の監督が多い

16. 班別討議 ②体罰についてどう考えるか

<A班>

- ・絶対ダメ
- ・選手に裏表が生じる
- ・態度が良くならない
- ・すぐに結果を求めてしまうことがダメ
- ・野球が好きだからとか甲子園を目指しているのだからやってもいいと思ってしまっている→長い目で余裕を持って
- ・本心から落ち着けるようになる

<B班>

- ・体罰厳禁
- ・殴る気にならない
- ・問題行動に熱くならないようにする
- ・相手の気持ちを考える工夫
- ・行動方針を自分たちで決めさせる
- ・叱るタイミング
- ・指導者の成長なくしてならない
- ・芽を摘む

<C班>

- ・体罰＝指導力のなさ
- ・暴力の連鎖をなくす
- ・怒り＝自分のイメージと違う
- ・チーム全体で一体感を持つことが大事
- ・理不尽も大切
- ・選手は損得で考える、選手は善悪で考える
→選手も善悪で考えられるように指導する

Q. どのようにチームに規律を生むか？

<大藤氏>

- ・山下先生の愛情、気迫を生むための準備がすごかった
→あそこまでやるから必要ない
- ・選手から野球を奪ってはいけない
- ・人が好き、野球が好き、生徒が好き

- ・罰則は練習に参加させない
- ・自分では「大したことはない」と思っている、相手にとっては大きな傷となる場合があることを認識すること

<仲井氏>

- ・目標：技術、甲子園→まず体罰は有り得ない
目的：社会で通用する人間→罰は設ける 例) ポール間走 100 本
- ・社会で通用する人間→ルールを守らない、時間を守らない、仲間を大切にしない
⇒特に厳しくする
- ・なぜこういうことを言うのかということを説明する
- ・自分自身は体罰を受けることが嫌ではなかった
- ・理論と指導力で勝負する
- ・結果を求めないのはどうかと思う→ただの甘い指導、しっかり向き合えない

<大橋氏>

- ・体罰は学校教育法に出てくる言葉
- ・スポーツ指導上のミスに対する罰は暴力
- ・厳しい指導と体罰
- ・説明と相互理解の上で科学的に合理的な説明がつくか
- ・被害者の承諾が必要→スポーツ指導の場合、上下関係上認められない
- ・認められるのは正当防衛だけである

<山下塾長>

- ・自分たちの過ちを繰り返さないために
- ・育てる野球で勝てるようになり面白くなった
- ・時の流れ、心の変化に対応していく
- ・人間的な魅力を
「うちの学校の監督かっこいい」と言われるように
- ・愛情と信頼→真の絆
- ・全世界に通用する若者を育てる、世界に通用する野球をする
- ・尾藤監督の言葉
グラウンドは畑である。開拓整地し、肥料をまき水をやり、育てる気持ちが大切。
不作だと物言わぬ農作物に当たるのか。
明らかに世話不足である。

17. 座学Ⅸ チーム、個人用具の管理 山下智茂氏

<説明>

- ・今の若い監督のしつけは厳しい
 - ① グラウンド→平らに波をなく
 - ② 部屋→不祥事、暴力
 - ③ トイレ
- ・甲子園は世界一のグラウンド
- ・目に見えない所を教育せよ
- ・グラウンド→人間力を学ぶ、神様がいます
- ・グローブを磨いていない選手→手でやる
- ・スパイクを磨いてない選手→裸足でやる
- ・MLB→専門のスタッフがいる
 - イチローは自分でやる→すばらしいことだと感じる
- ・負けた時のチームに本性が出る
- ・勝負には恐怖疑惑を持たない
- ・甲子園→テンポが速いので3回先を読んで動く
- ・監督の能力を超えた選手がいる→リスペクトする
- ・相手チームを3試合見る→人柄、性格を研究
- ・素直に教えてもらう
- ・監督は孤独
- ・酒とタバコとノックで体を壊す
- ・健康管理をする、してもらう
- ・サングラスをして目を大切に

18. 実技Ⅴ 走塁の基本 仲井宗基氏

<説明>

- ・決まったことがないから難しい
- ・相手のレベルが低ければできる
- ・0.1秒で1m違う→間一髪セーフ
- ・勝負を分ける→ちょっと意識してみる
- ・もっともっと工夫が必要
- ・打ったらすぐ走る習慣をつける

- ・3 フィートラインの縁からオーバーラン→どんなボールでも
- ・オーバーラン→中にしるしをつけて見て回る

<1 塁>

- ・リードは4m（市立尼崎は4.5mであった）
- ・右足を2塁に向けて体重を乗せる
- ・1塁は駆け引き

<2 塁>

- ・シャッフル（サイドステップ）で第2リードを取る
- ・バッターのインパクトの瞬間は右足が上がっていること
- ・インパクトの時に拍手することで練習になる（インパクトを見れているか、やれているかの確認になる）
- ・右足が着いてインパクトを見ていると、動きが止まってしまう

<3 塁>

- ・まっすぐ行ってまっすぐ戻る
- ・リードは4mで1塁と同じ
- ・インパクト拍手でスタートの練習をする

<まとめ>

- ・どれが速いかを実際にタイムを計って比べてみる
- ・走塁の意識は、チームのレベル
- ・認識と共有を徹底的に行う

<山下塾長>

- ・主力が手を抜いたら負ける一生懸命やらないとダメ

Q. スライディングはどう指導しているか？

<仲井氏>

- ・できるだけ近くでスライディング→勢いを止めるものだから

<山下塾長>

- ・盗塁の重要な3S
スタート、スピード、スライディング

<仲井氏>

- ・判断しやすいという要素を持たせる
- ・1死3塁でのタッチアップの守備
 - どれが速くて正確なのかを理解しておくこと
 - 外野からの送球はどんなに山なりでもノーバウンドが一番速い
- ・走者は自分で打球判断をする
- ・駒大苦小牧の例
 - 2塁で走者は自分より左側の打球はホームまで行く
- ・ホームは平らなのでぎりぎりですライディング
- ・ストライクスクイズをする
 - 甲子園レベルでは、構えたら外される
- ・フリースチールはさせない
 - 配球で変化球が多い時に盗塁のサインは出す
- ・投球の癖を盗む

<大藤氏>

- ・スクイズを外されたら監督のせい
- ・6mでのギャンブルスタートをさせる時もある
- ・打球はランナーが自分で見る→コーチが見るのは難しい

19. 実技VI ノックの実践練習

<山下塾長>

- ・体が前に屈曲すれば内臓がやられる
- ・左右で打たずにどちらかを極めた方が良い
- ・ノックに性格が出る

20. 閉講式

<山下塾長よりメッセージ>

- ・生徒の心に火をつける
- ・人間的な器を大きくすること
- ・良い人、良い本に出会い、良い旅をすること
- ・人は財
- ・「花よりも花を咲かせる土となれ」

<参考・引用>

アンチ・ドーピングを通して考える—スポーツのフェアとは何か—

野球団体関係図（全日本野球協会）

〈甲子園監督名鑑～青森代表〉2年ぶり7回目の出場・八戸学院光星高を率いる仲井宗基監督(週刊野球太郎)

大藤敏行とは - goo Wikipedia (ウィキペディア)

最後までお読みいただきまして、ありがとうございました。

ご質問・お問い合わせがありましたら、以下にご連絡ください。

長野県木曽青峰高等学校

〒397-8571 長野県木曽郡木曽町福島 1827-2

TEL 0264-22-2119 (代表)

0264-22-2639 (体育科研究室)

FAX 0264-21-1056

保健体育科・野球部監督 柳瀬 元 (やなぎせ はじめ)